

31年1月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成31年 1月1日～ 31年1月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
1月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		31/1月	2月	3月
伐採動向	スギ	8.3	0.0	△ 8.3
	ヒノキ	△ 12.5	△ 12.5	0.0
	カラマツ	△ 16.7	0.0	0.0
	エゾ・トド	50.0	16.7	△ 33.3
出荷・販売動向	スギ	30.0	20.0	20.0
	ヒノキ	16.7	16.7	0.0
	カラマツ	△ 16.7	0.0	0.0
	エゾ・トド	50.0	16.7	△ 33.3
手持立木在庫動向	スギ	0.0	△ 10.0	△ 10.0
	ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	エゾ・トド	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0

・スギの伐採動向は1月の増加から2月は横ばい、3月は減少に。ヒノキは1月、2月の減少から3月は横ばいに。カラマツは1月の減少から2月、3月は横ばいに。エゾ・トドは1月、2月の増加から3月は減少に。

・スギの出荷・販売動向は3カ月連続増加。ヒノキは1月、2月の増加から3月は横ばいに。カラマツは1月の減少から2月、3月は横ばいに。エゾ・トドは1月、2月の増加から3月は減少に。

・スギの手持立木在庫動向は1月の横ばいから2月、3月は減少に。ヒノキ、カラマツとも3カ月連続横ばい推移。エゾ・トドは3カ月連続減少。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・国有林のトドマツ間伐の立木公売箇所を実行中。現場条件が良いので伐採動向はやや増加（北海道）。
- ・国有林の素材生産請負事業を継続中、2月下旬には終了予定（北海道）。
- ・年末年始の関係で当月は伐採量が一時的に減少（東北）。
- ・立木販売カ所のスギを伐採中。600m3を予定（東北）。
- ・スギ、ヒノキの主伐を実施中。カラマツはなし（中国）。

(出材・販売動向)

- ・流通材の需要が多く出材・販売動向はやや増加。運材車を増車できると増加になる（北海道）。
- ・スギ、カラマツとも強含み（東北）。
- ・スギのパルプ・チップ材を販売（東北）。

(手持ち立木在庫)

- ・手持ち立木を伐採しているので、手持ちの立木在庫は毎月減少している（北海道）。
- ・請負事業の実施中のため在庫に変動はない。2月中旬以降には手持ちの立木販売物件に着手予定（北海道）。
- ・スギ、カラマツとも立木在庫は少なくなるが、慌てずに対処している（東北）。
- ・平成31年2月から7月までの立木販売と造林（植付）の一括事業を受注している（東北）。
- ・新年度まで在庫は増やさない方針のためやや減少（九州）。